１９９４サンパチシニア年間カレンダー

1994(H6)1月現在 京都第38団シニア隊

月	隊　集　会（第３土曜定例）	団	地　区・連　盟
1	15 新春ゲーム大会(SSL宅)19:00～	1 新年の集い	16女子駅伝奉仕11:30烏中前
2	19 スカウトだけの隊会議(ﾊｳｽ)21:00		12-13ﾌｫｰﾗﾑ 27車ｲｽ駅伝奉仕
3	19 現実直視パーティー(入学発表集会	25-27BS春ｷｬﾝﾌﾟ	
4	16 移動ｷｬﾝﾌﾟ計画集会(SSL宅)21:00～		10 地区11NJ結隊式 17BSﾗﾘｰ
5	21　同 上 報告集会(SSL宅)21:00～		？ CSラリー
6	18 技能章研究集会(SSL宅)21:30～		18-19BS救急法講習会17:00
7	16 技能章研究集会(SSL宅)21:00～	CS1泊隊集会	
8	固定キャンプの実施(瀬戸内離れ島)	BS・CSｷｬﾝﾌﾟ	1-9 11NJ九州大分久住山
9	17-18地区シニアラリー参加		17-18 地区ｼﾆｱﾗﾘｰ(ｶﾇｰ講習)
10	16 カワセミハイク(京大演習林)08:00	上進式	
11	19 年間プログラム会議(SSL宅)21:00	育成会総会	
12	17-18 パラシュートハイク(入隊式)	団行事	

修正新年度電話連絡網(1994.2.1～)

→→　入矢次郎→　北村和幸→　西野誠人→　西村直久

↑

チーフスカウト

伊藤良崇→　山本亮太→　江本　勝→　山田泰央　出口浩平

↑　↓　↓

↑　松野真太郎　←八木立夫→　SSLへ報告

↑

末吉央伯SSL→　角井ASSL→遠藤ASSL

(各自の都合や不明な質問については必ず隊長へ連絡を入れること。勝手な判断はつつしむ。
また、隊側からは集会案内等の電話連絡は、そのつどしない。定例集会は毎月第３土曜夜)

１２・１月の活動記録

12月18日(土)～19日(日)　ＳＳ定例隊集会　パラシュートハイク 21:00～翌朝
参加者　八木立夫、出口浩平、山本亮太、入矢次郎、江本 勝、山田泰央、西村直久、
末吉SSL、角井ASSL。

12月19日(日)　団行事　ハウス長休　10:00～15:00
参加者　八木立夫、出口浩平、山本亮太、入矢次郎、江本 勝、山田泰央、末吉SSL.

１月１日(土)　新年の集い　ハウス長休　08:30～09:30
参加者　八木立夫、出口浩平、山本亮太、西野誠人、北村和幸、入矢次郎、
江本 勝、山田泰央、西村直久、末吉SSL.

１月15日(土)　ＳＳ定例隊集会　19:00～23:30　隊長宅(新年ゲーム大会)
参加者　八木立夫、出口浩平、伊藤良崇、山本亮太、西野誠人、松野真太郎、入矢次郎、
江本 勝、山田泰央、西村直久、末吉SSL.

１月16日(日)　女子駅伝奉仕　11:00～14:00　烏丸中学前集合
参加者　八木立夫、出口浩平、伊藤良崇、西野誠人、角井ASSL.

LOOK WIDE NEWS KYOTO SUNHA°CHI SENIOR SCOUTS

広観日記

1. FEB.'94
No.017

日本ボーイスカウト京都第38団シニアスカウト隊機関誌

１月15日　隊集会　バトルに燃えた！！

新年ゲーム大会のグランプリには山田泰央君賞品のスイスアーミーポケットナイフを獲得百人一首からUNO, ビンゴ, 坊主めくり等まで。

惜しいことに北村君だけが欠席だった(祖母葬儀のため)

これくらい何でも真剣になれると・・・・SSL談

２月　隊集会案内

日　時	2月 19日(土) 21:00～
テーマ	「スカウトだけの隊会議」
場　所	ハウス長休
内　容	プログラム会議
服　装	制服(着用して集合)。
持ち物	隊費。筆記具、金銭出納帳、進歩記録帳、

団行事ウォークラリー優勝の感想

「ボーイ隊最後の団行事」

ＢＳ鷲班　　班長　八木創平

僕は、去年の団行事には参加できなかった。だから、今年は楽しみにしていた。出場するからには上位をねらおうと思っていた。

そのせいか、初めのうちは歩いていたけれど、御所に入ったとたん、欲張って班員がいるのも忘れて、すべてのポイントを走り回った。ふと後ろを振り向くと、班員が疲れた顔でとぼとぼと歩いていた。

上位入賞者の答礼の　い　や　さ　か

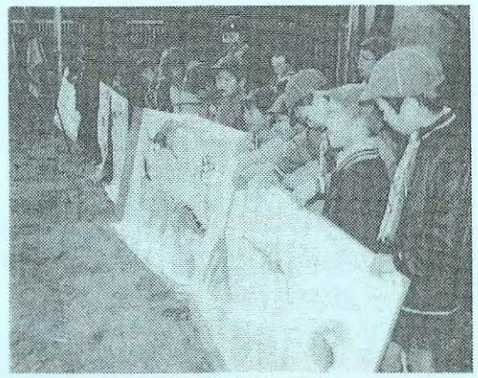
相国寺のポイントで時間の調整もあわせて、ゆっくりと休んだ。ハウス長休にゴールすると、難問が待っていた。それは、相国寺からハウス長休までの間で、貼ってあった文字を並べて、その１番最後の文字を当てる問題だった。俳句も作らなくてはならなかったけど、そんなことは気にもせず、答えを考えていた。でも考えれば考えるほど、わけがわからなくなっていった。そのとき「班長、早く　べんとう　もらおうなー」と班員が言った。この解答を出さないとお弁当はもらえないからだ。あせったが悩んだ末にやっとわかった。時代が戻るにつれて、進級章の頭文字が富士から若くなっていくことに気がつ

いた。答えはりすの「り」だった。ここまで凝ってあるとは思わなかった。
順位が貼り出され、１位になった時は、みんなで喜んだ。本当にうれしかった。
来年は、シニアスカウトなので、ボーイ隊でのいい記念になったと思う。

人類の　生命が宿る　おおむかし　八木創平

作句はCSにとっては少し難しかったようでした。
次に、いくつか すぐれた作品を紹介します。

おおむかし　ぼくもいきたい　はくあきに　CS2組　山本俊介
おおむかし　ゆめのせかいの　三時間　育成会　月里明美
団行事　進化の後を　たどり行く　育成会　山田典子
師走晴れ　恐竜みっけ　息はずむ　育成会　八木民子
おむかし　生物たちが　進化する　BSワシ班　西野恵太
六億年　たどって歩いて　ああしんど　育成会　入矢保子
恐竜の　生命(いのち)がやどる　今世紀　SS　山本亮太



ＣＳ隊 各組の発表

育成会クレパスミッチャンチーム表彰

盛況！　ＲＳ隊主催のノミの市

小春日和の 団 行 事　12月19日(日)　ウオーク・ラリー

35周年隊褒綬の授与

暮れの創立35周年団行事には85名もの参加があり、開会に続いて実施された団創立35周年ウオーク・ラリーには15チーム71名のエントリーをみて、にぎやかで楽しい１日となった。

１月号の広観日記を、昨年のように団の全スカウトに配布する形で、ウオーク・ラリーの講評をタイムリーに出したかったのだが、なかなかまとめの力と時間を作れなくて発行をあきらめ、ひと月遅れでようやくそのねらいを表すことになった。

この講評は、現リーダーはもとより、将来リーダーになる方々にとって、プログラム活動の基本の理解につながるものと意図して作成したので、少々難しいかもしれないが、プログラムを立案する場合の参考にしてほしい。

技能章取得者　オリエンテーリング章＝　八木立夫，出口浩平。
ニュース　わ ら 工 章　＝　出口浩平，伊藤良崇

創立35周年ウオーク・ラリー講評

まずどのような形式で行うかについて、昨年は設定されたポイントを多く回るライン・オリエンテーリング形式をとったのは、たくさんの参加の場合に好都合で、これは同時にスタート出来範囲も広く各チームが重なることが少ないからだ。しかし昨年と同じ形式を同じ地域で行うのは、新鮮さに欠けるので、今回はあらかじめ決められたコースを順に進む形式を採用した。

そして街中を歩くという、どちらかといえば変化に乏しいコースをいかにおもしろくハイキングするかという味付けが問題になってくる。あれこれ考えた上、少し視点を変えて、全行程６kmの距離を長い年月に置き換え「生命の進化をたどるハイク」というテーマをつけた。

つぎに団行事の特徴であるＣＳからＲＳ、育成会、そしてファミリーチームという幅広い参加者を均等に評価する苦労がいる。昨年は年齢等によってハンディキャップをつけたが、今年はスタート時間をずらしゴールする時間を同じにして、各チームの能力に応じての所要時間の長短で均等化を図ったつもりだが、ファミリーチームには気の毒であったと思う。

ファミリーチームの表彰

肝心なことは内容だ、ただ歩けば６kmは90分かからない、シティハイクをいかに退屈しないで歩いてもらうか工夫することに努力した。

最初の古生代は、生物が上陸するまで余り変化のない時代だということを感じてもらうために、そのまま単調に進んでもらった。前半は元気なはずだから。ただ古生代の生物カード(実はこれは第４ポイントの解答のヒントだったが)を追跡サインに使ったのが裏目にでてしまった。それがかえって注目を引き、第２ポイントが見落とされる結果を生んでしまった。生物が陸に上がるということを、川の飛び石を渡って上がることでそのイメージとしたつもりなのだが、ポイントの設置の仕方も良くなかったようだ。そのほかはゴール近づくにつれて忙しくなるようにすることで、６kmの長さを感じないように仕組んだ。そしてゴールで、この日の参加者には、ゴールのわずか2.5cm手前に お釈迦様の誕生とは驚きだ。ということを、感じてもらいたかった。

もし、生命が誕生した３５億年前の場面からスタートするなら、大阪府の茨木市あたりから。地球が生まれた４６億年前なら大阪市梅田のあたりからスタートしなければならないことの時間の隔たり思い起こすと、あらためて自らの生命の大切さを思わざるを得ない。

我々の遺伝子DNAの中におおむかしの生物のDNAの一部が宿ってる。地球の歴史から見れば、本当にごくごく最近のことになるが、小川玄諦先生が亡くなられたことをとってみると、今も、先生の心が、みんなの心の中に伝わっていることをあらためて認識したい。

最後にコースの下見を寒い日に実施したり、当日の明け方までの準備や、ポイントマンをつとめてくれた八木立夫君はじめ、出口浩平君にはご苦労様でした。これで両君の技能章オリエンテーリング章の細目証明ができるのでうれしい。

プログラムの立案と実施には、多くの時間と労力がかかると言うことなのですが、ハイキングひとつでも、味付け一つでおもしろくなるし、意味のあるものになるということの参考例にでもなったでしょうか。　ぴ。